

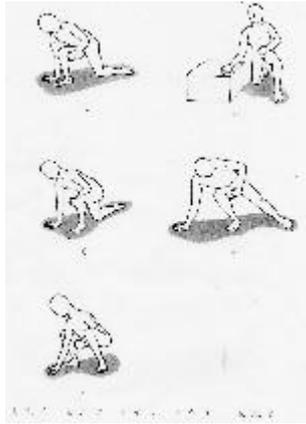
第38回理学療法士作業療法士国家試験不適切問題

(平成15年3月2日実施)

作業療法問題

問題番号(7)

問題7 56歳の男性。左片麻痺。脳梗塞発症後3ヶ月。プルンストローム法ステージは上肢、手指、下肢。感覚や認知に問題はなく、歩行は短下肢装具、杖にて室内は自立。この患者の床からの立ち上がり動作指導で**適切でない**のはどれか。



- 1.ア、イ 2.ア、オ 3.イ、ウ 4.ウ、エ 5.エ、オ

解：なし

不適切な理由

参考文献からは、床からの立ち上がりとしてア、イ、ウ、エが紹介されており、組み合わせとして解答の選択ができない。したがって、解なしとなり、不適切と思われる。

参考とする文献

- 福井囀彦 他編：脳卒中最前線（第2版）．医歯薬出版，2002
土屋弘吉 他編：日常生活活動（動作）（第3版）．医歯薬出版，1999
伊藤利之 他編：ADLとその周辺．医学書院，1997

第38回理学療法士作業療法士国家試験不適切問題

(平成15年3月2日実施)

作業療法問題

問題番号 (41)

問題41 ダニエルスらの徒手筋力テストで正しいのはどれか。

- 1 . 4 (Good)の+と-は筋力と関節可動域との組み合わせで決める。
- 2 . 抵抗の強さは運動最終域のブレイクテストで決める。
- 3 . 背臥位、腹臥位、側臥位の順序で検査する。
- 4 . 3 (Fair)は最大筋力の50%に相当する。
- 5 . 間隔尺度による測定法である。

解：選択が困難

不適切な理由

参考文献1)では、選択肢のいずれもが記載されておらず、正しいという選択は困難である。また、参考文献2)でも、「4」に類似した「最大抵抗の50%」という記載がみられるが、正確には「最大筋力の50%」ではないために選択が困難となり、不適切と思われる。

参考とする文献

- 1) 津山直一 訳：新・徒手筋力検査法．協同医書出版社，1996
- 2) 津山直一・東野修治 訳：徒手筋力検査法（改訂第5版）．協同医書出版社，1994

第38回理学療法士作業療法士国家試験不適切問題

(平成15年3月2日実施)

作業療法問題

問題番号(97)

問題97 適切でない組み合わせはどれか

- | | | |
|------------------------|-------|-------------|
| ア . 強迫性障害 | _____ | 皮細工のコースター作り |
| イ . 急性期精神分裂病 (統合失調症) | _____ | ストレッチ体操 |
| ウ . 慢性期精神分裂病 (統合失調症) | _____ | 共同作業のはり絵 |
| エ . 躁うつ病の躁状態 | _____ | 陶芸の花瓶作り |
| オ . 躁うつ病のうつ状態 | _____ | 籐細工のかご編み |

- 1 . ア、イ 2 . ア、オ 3 . イ、ウ 4 . ウ、エ 5 . エ、オ

解 : 選択が困難

不適切な理由

作業活動は、その工程や内容によって、疾患や障害に適応するものである。本問題のように、単純な組み合わせでは、選択が困難であり、不適切と思われる。

参考とする文献